

## 白川町立小・中学校再編計画 地区説明会 会議録

1. 日 時 令和4年9月17日（土）午後7時32分から午後8時55分
2. 会 場 蘇原ふれあいセンター
3. 参加者 別紙名簿のとおり 19名  
町教育委員会：鈴木教育長、大岩課長、玉置学校再編専門監、鈴木
4. 資料等 別紙のとおり
5. 記 録

- (1) 開会あいさつ 大岩課長
- (2) 資料説明 鈴木教育長（19:33～20:01）
- (3) 質疑・意見等

○50代 男性A

・先ほど説明があった今後の学校再編計画について、町内小中学校の卒業生も分かるように例えば成人式などの機会を利用して周知することを検討してほしい。転出した若者に自分達が学んだ学校や白川町の現状を知ってもらうことでUターンのきっかけになると考えるがどうか。

○鈴木教育長

・とても大事なことだと思うので、取り組んでいきたいと思う。

○50代 男性A

・給食センターの配置について説明があったが、災害時における炊き出し等に対応できるような施設や設備を検討できないか。

○鈴木教育長

・現状として災害時に対応可能な機能は無く、機械等の故障が起きた場合などの非常食は備えているが、あくまでも給食の範囲内の対応としている。災害時の対応に関しては、今後の検討としたい。

○60代 男性A

・令和2年に白川小学校と白川北小学校、令和4年に白川中学校と佐見中学校が統合しているが、現時点で何らかの問題は発生しているか。

#### ○鈴木教育長

・令和2年と令和4年にそれぞれ統合をしているが、少なくとも統合後1年間は様々な問題が発生することを想定した対応が必要だと考えている。小学校の統合は、これで3年目を迎えるが、大きな問題は無く子供たちは早い段階から学校生活に馴染んでいる。白川小学校と白川北小学校、それぞれの文化や伝統があるが、それを調整しながら統合準備を進めてきた経緯があり、現時点で大きな問題は無いと認識している。

また、中学校の統合に関して、一番の課題はスクールバス通学の件である。佐見からのバスについては有本と稲田の2箇所から出発し、7時半に学校に到着することで対応している。白川中学校から切井や飛保までが約17キロ。また、白川中学校から佐見までは約30キロあり、部活動やスポーツリンクの活動について不都合な点があり、保護者からの問い合わせ等があった。夏に佐見地区で会議があったが、人間関係のトラブルは一切無かった。これは統合前から学校交流会を開催してきた成果だと考えている。

統合後は2、3年生は各1クラス。1年生は35人を超え久々の2クラスとなった。佐見からは6人の生徒が加わったが、子どもたちは早い段階から馴染んでいる。これから冬場を迎えるため、年度末までの1年間の様子をみながら、問題点があれば随時対応することとしている。

#### ○玉置学校再編専門監

・2つの学校統合に関しては、統合の1年前から統合準備委員会という組織を作り、想定される課題を前もって検討、協議する場を持ってきた。

小学校統合に関してはスクールバスによる通学環境が大きく変わるため保護者の関心が高く、要望が多かった。そうした調整を何度も繰り返しながらバスダイヤを検討した経緯がある。検討の結果、最終的に飛驒川沿いのルートとなったが、2年を経過した現時点で通学に関する問題は発生していない。

また、中学校統合に関しては、PTA活動の調整が課題となった。佐見地区に関しては、特に子どもの数が少ないため、資源回収による収入がPTA運営費の約半分を占めていた。そのため地域の方々も資源回収への理解が深く、1人あたりの収集量が統合前の白川中学校区の約3.4倍という実績があり、統合後は、旧佐見中校区が8割、旧白川中校区が2割という配分を協議して決定した。他にもPTA役員数の割合について規約で定めるなど、それぞれの統合に関し課題となる点を事前に協議しながら統合準備を進めてきた。

#### ○30代 女性A

・黒川から参加させてもらった。私は子供が保育園だが、統合の話は小学生の保護者から少しだけ耳にした。保育園児やもっと小さな子どもを持つ保護者はこの話を聞く機会が

無く、自分も含めて今日の説明を十分理解する必要があると感じた。小中学生の保護者だけでなく、保育園児や未就園児の保護者向けにも説明の機会はあると良いと感じた。

○鈴木教育長

・ご発言のとおりで、全ての年代の保護者に対する説明は出来ていない。今回は地域説明会としての開催だが、保護者世代の参加者は少ないので、本日の説明資料の配付をすることに合わせて、短い時間にはなると思うが、補足説明の機会も考えていきたい。

また、今後は新しい学校の教育の中身を加えて説明するなど、回数を重ねながら丁寧に進めていきたいと考えている。

○40代 男性A

・私の次男が白川中学校の1年生で、4月から佐見中学校と統合し、部活動も野球部の所属で佐見地区の生徒と一緒にいる。小規模校との統合ではあるが、人数が増えることで色々な選択肢が増えたことを実感している。実際に統合を経験した子供たちの生の声や意見を聞く機会があると今後統合を迎えようとしている保護者の参考になると思う。

○鈴木教育長

・子どもの意見を直接収集したことは無い。数年前のことであるが、中学生が夏休みの研究で小規模小学校の統合をテーマとした内容があり、そうした機会を通じて子どもの考えや意見を目にするには実際にあった。

統合して良かったという意見や逆の意見も当然あると思っている。6月の少年の主張発表で旧佐見中生徒の体験談を交えた発表がされ、内容は「ひとなる」で紹介した。教育委員会から意見徴収は行っていないが、学校等から出された意見を収集した事はある。今後も工夫しながら、保護者への周知を検討していきたい。

○70代 男性A

・私は学校運営協議会委員として関わっているので、意見というよりも感想を述べたい。白川中学校と佐見中学校が4月に統合し、春に開催された団結祭は大変素晴らしい内容であったという意見を多く聞いた。少人数の統合であるが、迫力があり素晴らしい団結祭だったと私も感じた。

また、学校運営協議会では、佐見地区からの河岐まで毎日の通学は遠距離で大変な思いをしている、という意見があった。先ほど教育長の話しにあったように、統合後1年間は、様子を見る期間が必要だと思っている。今後は、蘇原小学校と白川小学校の統合も予定されているので、これからの学校運営協議会の中で話題提供や意見を徴収したいと思う。今日の会

議は現役世代の参加者が少ないので、もう少し関心を持ってもらえるよう教育委員会としても努力してほしい。学校再編については、将来的に必要なことだと思うので、着実に進めてほしい。

○鈴木教育長

・Aさんには学校運営協議会の委員長として長く関わっていただき、定点から長い目で状況の変化を見ていただき感謝している。蘇原地区に関しては、今後小学校の統合が予定されており、蘇原地区から小学校が無くなる形になる。それに伴い、通学をはじめとし、様々な課題が考えられるが、詳細については、これから検討を進めていくことになる。今後の状況に関しては、その都度保護者への周知を図っていきたい。

○玉置学校再編専門監

・先ほど統合後の子ども達の生の声というお話があった。実は、白川小学校と白川北小学校の統合の際に、新白川小学校としての校歌を作った。夏休みに子どもにアンケートを行い、子どもたちの声を聞き、その内容を校歌の歌詞に用いる形で「未来の翼」というタイトルの校歌が出来上がった。ホームページで歌詞とメロディを紹介しているので、ご覧いただきたい。

○鈴木教育長

・今の専門監の話は新しい白川小学校の校章と校歌を作る際に子ども達の意見を参考に聞いたというものである。町内に広く公表せず、限定的な公表とした。

○60代 男性B

・意見ではないが、感想として発言したい。少子化の影響を受けたうえでの学校再編計画で、最終的には美濃白川学園という新しい構想の提案であり、私も心の中で期待をしている。ただ、今の説明では対処療法で根本的な解決にはならないと思う。子供の数が減少するなかでの計画だと思うが、これで本当に人口減少や少子化は止まるのか。新しい学校づくりを進めるのであれば、町外からでも来たいと思えるような学校であって欲しいし、子供が増えるような施策がセットで実行されるべきだと思う。教育委員会としての説明会なので、町長部局の施策に関しては説明がないと思うが、少子高齢化が待たなしの状況で、この流れに歯止めをかけ、この地でなければできない学校づくりをし、子育てをしたいと思えるような地域づくりをして欲しい。それが今の説明では響いてこなかったのが私の率直な思いである。根本的には町の活性化、まちづくりという問題だと思うので、町長部局と一緒にあった議論であって欲しいし、そんな説明会であれば今後も喜んで参加したいと思っている。学校再編

は大改革だと思うので、斬新で思い切った改革を望んでいる。

#### ○鈴木教育長

・まずは施設一体型の小中学校を建設することに関し、魅力的な施設にするとともに、そこでの教育が町外からも注目されるものにしていきたいと強く思っている。教育委員会としては教育を中心とした内容となるが、学校を通じてのまちづくりという視点で話しをしているつもりである。当面3小1中の体制でどこまで持続できるか難しい問題であるが、白川町の歴史を考えたときに、それぞれの地区に歴史と文化があり、そこで育つ子ども達のことを考え、義務教育学校になったとしても、白川、黒川、佐見地区の3地区に学校はあるべきだと考えている。

また、子供の減り方がどうなるか予想できない部分もあるが、白川町の教育が注目されるような施策も一緒に考えていきたい。今回は学校再編に関する説明会として教育委員会へのみの参加であるが、いずれは町長部局も含めたまちづくりの一環としての学校づくりとしての提案を行い、話し合う機会も考えていきたい。

#### ○70代 男性B

・先週に引き続き参加している。今から59年前、私は白川中学校が開校した当時の中学生であった。半世紀前の話しになるが、当時は赤河小学校から蘇原中学校に行く予定だったが、中学校は河岐に新しくできる白川中学校に行くという説明を聞いた。中学校では1クラス50人弱、全体では600人という当時の規模であったが、半世紀が経過した今、自分が思うことは白川中学校で本当に良かったという事である。それは今でも付き合いがある友達が出来たことや良い先生に出会えたことである。生涯、師といえるそんな素晴らしい先生のおかげで今の自分があると思っている。白川中学校に行ったお陰でそうした経験ができたと思っている。少人数教育と大規模教育のどちらが良いかという議論は永遠のテーマであり、私はどちらにも良い点があると思っている。しかし、少子高齢化が進む現在の状況において学校運営という面で考えると、小さな学校を複数運営することはコストもかかり、町民の負担も大きいという事なので、合理性を考えてある程度まとめていく必要があると思っている。今この時期に白川町に100人規模の学校ができるという点については、私は自分の子どもが行くわけではないが、早く進めて欲しいと思う。それは自分が経験してきたことや自分の子どもがいるのであれば、100人の環境で学ばせてやりたい、という親の思いからである。

現在、学校再編を進めるなかで一番の問題は何か。自分は教育や財政の事も分からないが課題を皆で共有し、顕在化させることが必要だと思う。

○鈴木教育長

・私も同年代なので非常に懐かしい思いでお話を聞かせていただいた。一般論として学校再編を進める中での課題は、統合や校舎建設に関し合意を得ることと、財政的な問題だと思っている。これは白川町にもあてはまる。財政に関しては、新庁舎建設も控えているので、それを考慮した新校舎建設のスケジュール案をお示ししている。当然借金をすることになるので、それを極力抑える必要があるし、国庫補助金を受けるために色々と工夫をするなかで検討した結果として3ヵ年による校舎整備を計画したものである。いずれにしても厳しい財政状況ではあるが、今後も話し合いを重ねながら少しでも多くの人に理解してもらえようように進めていきたい。

今日はお忙しい中、多くの方にご参加していただいた。今後も情報提供をしながら進めていきたいと思う。今回は大まかな計画であるが、今後は統合したらどういう学校になるのかという中身の提案ができるようにしたいと思う。今後ご理解をお願いしたい。

(4) 閉会あいさつ 大岩課長 (20:55閉会)